

# 教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

## 1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

## 2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○:イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるように  
カナで奇跡を行いました。(×:カナの婚礼と奇跡)

## 3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

## 4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

教会教育部公式サイト <http://ce.ag-j.or.jp/>

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。  
すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

# 教師ノート

日付	2015年10月25日
単元	捕囚と帰還
テーマ	罪は人を不自由にする
タイトル	国外追放(ゼデキヤ王と預言者エレミヤ)
テキスト	Ⅱ 列王記 17:1-23、25:1-21、エレミヤ 21:1-10
参照箇所	Ⅱ 歴代誌 36 章
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ローマ 6:23
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

## □導入

”EXILE(エグザイル)”というダンスグループを知ってる?”EXILE”とは「追い出される・放浪する」という意味があるんだ。キミは叱られてお家を追い出されたり、部屋から追い出されたりしたことはない?もしそうになったらどんな気持ちになるかな?北イスラエルも南ユダもイスラエル人たち、実は自分の住んでいる国から追い出されちゃうんだ!なんで?~?

☞この『捕囚と帰還』の単元はカリキュラム上非常に短期間で膨大な内容に触れなければならない。もし状況が許すなら一つの課を2回か3回に分けて学んでも良いだろう。各教会の事情に合わせて柔軟にプログラムを工夫してもらいたい。

## □ポイント1 北イスラエル王国はアッシリヤに滅ぼされてしまいました(2列王記17:1-23)

北イスラエル王国の首都サマリヤでホセアが北イスラエルの王様になりました。北イスラエルの人々は何回王様が変わってもまことの神さまを礼拝することをせずいつも偶像を拝んでいました。イスラエルの人たちは神さまがモーセを通してエジプトの奴隷生活から救いだしてくださってから今まで必要なものはすべて与えてくださり、また敵から守ってくださったにもかかわらず、まことの神さまを知らない外国の人々が拝んでいた偶像を拝み仕えていたのです。

神さまはイスラエルの人々がこのようなまことの神さまを忘れ、偶像の神々を拝んでいる姿を見て何度も何度も預言者を通して悔い改めて神さまの元に戻ってくるように、そうでないと滅びてしまうと警告されました。けれども人々は預言者の言葉を聞こうとせず、バアル像やアシェラ像を作っては拝み、占いやまじないなど、自分たちがやりたいように、好きなことをして生活していました

ついに、神さまがしもべである預言者たちを通して警告されていたようにイスラエルが滅ぼされてしまう時がやってきました。アッシリヤがイスラエルに攻めてきたのです。アッシリヤの王様は北イスラエル王国の首都サマリヤを3年間包囲した後、ついにサマリヤを攻め取ってしまいました。イスラエルの人々はアッシリヤへと連れて行かれ、今まで住んでいた場所には誰も知らない他の国の人々が住んでしまいました。ついに北イスラエル王国は滅亡してしまっただけです!

☞(6節)イスラエル人が捕らえ移された場所ハラフ(北部メソポタミア、カランの近くと言われる)、ハボル(ユーフラテス川北方の上流地域)、ゴザンの川(ユーフラテス川の一支流)、メディヤ(カスピ海南方とメソポタミア東方の地域)を聖書地図等で確認すると良い。

☞(14節)「うなじのこわい者」…こころをかたくなにする者の意

## □ポイント2 南ユダ王国にもバビロンが攻めてきました(2列王記25:1-4、エレミヤ21:1-10)

北イスラエル王国が滅びてから約 130 年たった頃、南ユダ王国にもバビロンの軍隊が攻めてきました。南ユダ王国の人々は王様によって神さまに立ち返ることもありましたが、やはり南ユダ王国の人々も最後は神さまを忘れて偶像礼拝をしてしまうのです。バビロンの軍隊はユダ王国を滅ぼすためにやってきたのです。多くの町や村が焼かれ、ついにバビロンの王ネブカデネザルにエルサレムの町は取り囲まれてしまいました。戦いで多くの人たちが殺され、食べ物はなくなっています。ユダの王ゼデキヤは青ざめた顔で預言者エレミヤに尋ねました「本当にエルサレムの町は滅ぼされるのか？」エレミヤは答えました「そうです。ユダの人たちは神さまの招きがあったにもかかわらず偶像から離れないで罪を犯し続けてきました。ですから神さまがこの国を滅ぼされるのです」ついに、エルサレムの石の城壁が崩されバビロンの兵隊が雪崩のように攻め込んできました。

☞(8.9 節) 神さまはユダの人々が神のみ言葉に従いへりくだってバビロンに投降するものは生き、かたくなにエルサレムに留まろうとするものは死ぬと言われた。ここに神の憐れみと信仰が働く必要性を見る。

## □ポイント3 南ユダ王国はバビロンに滅ぼされてしまいました(2列王記25:5-21)

ゼデキヤ王はこっそりと逃げようとしたのですがすぐに捕まってしまいました。そして息子たちは殺され、自分は目をくりぬかれてバビロンに奴隷となって連れていかれてしまいました。王宮も神さまを礼拝する神殿も壊され燃やされ、神殿の中にあつた立派な礼拝の道具や宝物は全部バビロンに持っていかれました。大勢の人が滅ぼされ残ったのはわずかな人たちです。その残ったわずかな人々も遠いバビロンの国に連れて行かれることになりました。遠くの知らないバビロンの国でこれから奴隷として働かなければならないのです。ユダの人々の心は悲しみと不安でいっぱいでした。

## □結論 神さまに罪を犯して生きると私たちは不自由になります

神さまはずっとイスラエルの人たちに悔い改めてみ言葉に聞き従うようにと語り続けられました。神さまのみことばに従っていくことは不自由になることのように思うかもしれませんが、でも実はそうではないのです。神さまのみことばに従っていくことは、私達が交通ルールを守ることによって安心して道を歩くことができるように、自由と安心と喜びをもって生きる道なのです。反対に神さまを無視して、自分勝手に生きていくことは、交通ルールを無視して高速道路を歩くようなもので、いつも危険で不安と恐れで実は不自由な道なのです。

## □適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

神さまを無視して偶像礼拝の罪を犯し続けた結果、イスラエルの人たちは本当の神さまに戻れなくなってしまいました。そして、ついに国は滅び他の国に捕らえ移されてしまいました。実は神さまを無視して生きることはとても「不自由」なこと。きみは神さまに罪を犯しているために、苦しんだり、不安だったり、やめられなくなったりしていることはないかな？キミの心や行いが「不自由」になっていることはない？

祈り「天のお父さま、〇〇のことが神さまよりも大事になっていました。ごめんなさい。これからは神さまを第一にできるように、どうぞ助けてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。」

# 教師ノート

日付	2015年11月 1日
単元	捕囚と帰還
テーマ	神さまは信じて従う者を守り救われる
タイトル	一人でも大丈夫(ダニエル)
テキスト	ダニエル 1章、6章
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 詩篇 121:7
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

## □導入

キミの周りには天と地を造られた本当の神さまを信じている人はどれくらいいるかな？ 家族全員信じている人もいるだろうし、自分だけというお友達もいるかもしれないね。今日は、本当の神さまを信じない人々の国に連れて来られた人のお話だよ。どうなっちゃうんだろうね!?

## □ポイント1 ダニエルと三人の少年はバビロンに捕虜として連れてこられました(1章)

エルサレムの町はバビロンのネブカデネザル王によって占領されてしまいました。王様は、イスラエル人の中から王様の家族や貴族の人を何人か選んでバビロンの町に連れてくるように命じました。それは、これから3年間勉強して王様に仕える家来にするためです。その中にはまことの神さまを信じるダニエルと三人の友達もいました。バビロンの王様は彼らに特別に自分と同じ食べ物を食べるようにと決めていましたが、ダニエルたちはそれが偶像の神さまに捧げられたものであったり、モーセが律法の中で禁じている物であることを知って「自分たちには野菜と水だけを下さい」と言って世話をしてくれる人に頼みました。ダニエルたちはどんなことがあっても神さまに従う決意を持っていたのです。神さまは4人を特別に祝福して下さいました。他の誰よりも健康で、また色んなことを悟ることができる知恵をくださり、ダニエルには全ての幻と夢を解くことのできる力を与えてくださいました。国中で誰も彼らにかないませんでした。

☞〈背景〉…捕囚になりながらなぜ豊かな暮らしができるのか子どもたちにはわかりにくいかもしれないので必要に応じて補足してほしい。ダニエルたちはユダの王エホヤキムの治世3年に新バビロニア帝国の王ネブカデネザル(2世)によって連れていかれたと考えられており、まだ少年であった。ネブカデネザルは被征服民族をも登用する政策をとっておりダニエル等王家の血筋を引く若者たち(ユダ部族)はエリート教育を受けることになったようである。

☞(5節)「三年間」…宮廷に仕える訓練期間は一般的に14歳頃から3年間かけて行われた。ダニエル達もそれに近い年代であったのだろう。

☞(9節)異国の地で神さまに従う決意をもったダニエル達であるが、子どもたちの中には自分にはそんな勇気はないと考える者もいるかもしれない。ダニエル達は自分の力でこの状況に立ち向かったのではなく神の大きな恵みと憐れみの御手がのばされていたことを是非伝えてほしい。

☞(12節)「野菜」「水」…肉とブドウ酒が偶像に捧げられていたため食さなかったと考えられる。

## □ポイント2 ダニエルは人々から妬まれてライオンの穴に投げ込まれてしまいました(6:1-18)

ダニエルは外国の偶像を拝んでいる国でも王様の下で一生懸命働きとても良い仕事をしました。神さまが特別な知恵をダニエルに与えてくださっていたのです。また、どんなに忙しくても毎日決まった時間に三度まことの神さまにお祈りすることを忘れることはありませんでした。王様はダニエルをとて信頼して全国を治めさせようとしていました。ところが面白くないのは他の大臣たちです。「なんでダニエルだけ、ずるいぞ！」何とかしてダニエルを引きずり落とそうとするのですが悪口を言うところが見つかりません。

そこで彼らはダニエルが信じている神さまのことでダニエルを訴えようとしてしました。大臣たちは王様に言いました「王様、これから 30 日間、王さま以外のどんなものにも拝んではいけないという法律を作りましょう。もし破ったらライオンの穴に投げ込むのです！」大臣たちの悪だくみを知らない王さまは「それは良い！」といって命令を出してしまったのです。まことの神さまを信じるダニエルは決して他のものを拝むことはありません。いったいどうなるのでしょうか！ダニエルは命令が出されてからも今までと同じようにまことの神さまだけを礼拝したのです。それを見た大臣たちは早速王様に訴えました。王様はやっと大臣たちの悪だくみに気づいたのです。でも、一度出した命令は取り消すことができません。ダニエルはお腹を空かせたライオンの穴に投げ込まれてしまいました。王様は心配で一晩中眠ることができませんでした。

☞(7 節)「獅子の穴」…当時、法を犯した者をライオンの餌食にする刑罰があった

## □ポイント3 神さまはライオンの穴の中でもダニエルを守ってくださいました(6:19-28)

夜が明ける頃王様は急いでライオンの穴に向かい叫びました「ダニエ〜ル！あなたの神さまはあなたを助けることができたか〜？」するとどうでしょう！穴の奥からダニエルの声が聞こえるではありませんか！「王様〜！神さまがライオンの口をふさいでくれたので食べられることはありませんでしたよ〜！」王さまは非常に喜んでダニエルを穴から助け出してくれました。ダニエルには傷一つありません。代わりに悪だくみをした大臣たちがライオンの穴に投げ込まれてしまいました。王様は国中に手紙を送って言いました「ダニエルの神さまこそ、本当の神さまだ！」

☞(20 節)「生ける神のしもべ」…他の人々がダニエルに対し(13 節)「ユダからの捕虜の一人」と呼んでいるのに対しダリヨス王は「生ける神のしもべ」と呼んでいることは注目に値する。王はダニエルから他の家臣たちとは違う何かを感じ取っていたのであろう。キリスト(神)の香りが放たれていても分かる者と分らない者がいる。

## □結論 神さまは信じて従う者を守り救ってくださるお方です

### □適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1. あなたの学校や家庭で神さまを信じているのは自分だけという人はいますか？ダニエルは何があっても神さまを信じて従っていく決意を持っていました。神さまはどんなことがあっても必ずそこから守って救ってくださる力あるお方だと知っていたからです。ダニエルのように神さまを信じて従っていこう！神さまは必ずあなたを守ってくださいます。
2. あなたは神さまを信じない人たちの中でどのように生活していますか？神さまを信じている者らしく歩んでいますか？ダニエルは本当の神さまを信じない人々の中でも、神さまを信じ、良い行いに努めて王様の信頼を得ることができました。神さまを信じて従う人は、この世でも輝いて生きることができます。

# 教師ノート

日付	2015年11月 8日
単元	捕囚と帰還
テーマ	神様は一人一人に特別な使命を与えておられる
タイトル	“この時”のために(エステル)
テキスト	エステル記全体(1章～10章)
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) エレミヤ 29:11 or ローマ 8:28
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	
<p><b>□導入</b></p> <p>「どうしてこのようなことが起こるんだろう？」と思ったことはないかな？私たちが毎日生活をしていると良いことも悪いことも含めて思いもよらないようなことに会うことがあるよね。今日は、奴隷として連れて来られた外国の地で一人の女の人が王妃になるという夢のようなお話だよ！どうしてそんなことがおこったんだろうね！</p> <p>時代が変わり、あんなに強かったバビロニア帝国もペルシャの国に征服されてしまった。ペルシャの王様は今までと違って捕囚となっていた人々を元の国に帰すことにしたんだ。でもそのまま住み慣れたペルシャに留まる人もいたんだ。エステルもその一人だよ。</p> <p><b>□ポイント1 エステルはペルシャの国の王妃に選ばれました(1-2章)</b></p> <p>ペルシャの国のアハシュエロス王様はお妃になる人を探していました。前のお妃が王様に従わなかったのでお城から追い出してしまったからです。国中の町や村から美しい若い娘たちが集められてきました。エステルもその一人です。エステルはお城で働いていたユダヤ人モルデカイの養女でした。エステルはモルデカイおじさんから「自分たちがユダヤ人であることは誰にも言うてはいけませんよ」と言われていました。集められた娘たちはきれいにお化粧をして一人ずつ王様に会いに行きました。エステルが王様の前に行くと、王さまは美しいだけでなく、皆からも愛されている立派な心を持っているエステルをお妃に選びました。そして冠をエステルの頭に載せると、国中にエステルが王妃になったことを知らせました。</p> <p>☞(2:6)「エステル」…ペルシャ語で「星」の意味。エステルのヘブル名「ハダサ」はミルトスの木を意味する。青黒色の果実は鎮痛の効があると言う。この花は何かめでたいことがあると装飾に用いられるので「祝いの木」とも言われる。祝福を表す。エステルはユダヤ人にとって祝福と希望の星になったと言える。</p> <p><b>□ポイント2 エステルはイスラエルの国を救うために立ち上がる決心をしました(3-4章)</b></p> <p>ところで、王さまが特別に信頼していたハマンという男が国で一番偉い大臣になりました。王様が命令したので他の家来たちはハマンが道を通ると膝をかがめてひれ伏しました。ところがモルデカイだけは決してひれ伏そうとはしません。モルデカイはただ真の神さまお一人だけを礼拝していたので、人間であるハマンを拝むことはしなかったのです。ハマンはとて腹を立てました。ハマンはモルデカイがユダヤ人であることを知って、王様にお願ひしました「王様、このペルシャの国にあなた様の命令を守らない者たちがいます。それはユダヤ人です。彼らを滅ぼす命令を出して下さい」王様はハマンの悪だくみを知りません。また、自分の愛する王妃エステルもユダヤ人であることを知りません。王様は「好きにしなさい」</p>	

とハマンに言いました。大変なことになりました。

王様の命令を知ったモルデカイは大変悲しみました。他のユダヤ人たちも同じです。モルデカイはこのことをすぐにエステルに伝え「ユダヤ人を滅ぼさないように王様にお願いしてください」と頼みました。しかし、王様から呼ばれないのに勝手に王様の前に行くと死刑になってしまうのです。エステルは悩みました。モルデカイは再びエステルに手紙を書いて言いました「あなたが王妃になったのはまさに“この時”のためだったのかも知れないのだよ！」エステルは決心しました。「おじさん、私のためにこの国にいるユダヤ人を皆集めて三日間お祈りしてください。私も断食してお祈りします。そして王様のところへ行きます。死なねばならないのでしたら死にます！」

☞一人のかよわい女性が民族のために命をかけて立ち上がるこのシーンを是非表現豊かに伝えてほしい。またユダヤ人を集めて自分のために取りなして欲しいと願ったエステルの決断の背後にある不安や恐れ、どのようにしてそれを乗り越えていったのか(→神に向かうことによって)、その心情をも伝えたい。

📖(14 節)「別の所から」…神から、ということ。エステル記では故意に神という名が隠されている。しかしエステル記ほど神の摂理、地上で起こる一切のことを導いておられる神の主権を教えている書物もないだろう。神こそ私たち人間の歩みの主権者であられる。神は全ての者にみこころのままに使命を与え、そこに導いておられることがわかる。

### □ポイント3 神さまはエステルによってユダヤ人を救っていただきました(5-10章)

エステルは王宮に向かいました。王様はエステルが勝手に自分の所に来るのを見ました。そしてエステルに向かって金の笏を差し伸べたのです。なんと、それは王様がエステルを許してくれたことのしるしでした！「エステル、いったいどうしたのだ？」王様は優しく尋ねました。「王様、是非ハマンとご一緒に私のパーティーにお出ください」エステルは言いました。次の日も同じようにエステルは王様とハマンをパーティーに招待しました。王様はパーティーの中でエステルに言いました「エステルよ、何か願いでもあるのか？」エステルはついに言いました「王様、私と私の国の人々を救ってください！皆殺しにされてしまうのです！」「なんと！いったい誰に？」「この悪いハマンです！」怒った王様はハマンを高い柱にはりつけにしてしまいました。そして新しい法律を出してユダヤ人を守るようにしてくれたのです。ユダヤ人たちは大喜び！またモルデカイのすばらしい働きを知った王様はモルデカイに高い位を与えました。ユダヤ人はこの大きな危機から守られたのです。それから、ユダヤ人たちは毎年このことを思い出してはお祝いするようになりました。

### □結論 神さまは一人一人に特別な使命を与えているお方です

#### □適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

私たちは生きているといろんな事が起こるよね。その中には、なぜそうなったのか私たちには理由が分からないようなこともたくさんある。しかし、神さまにあってそれは全てに意味があるんだ。一つも無駄なものはないんだよ！エステルが王妃になったのには神さまの深い特別な使命があったからなんだ。しかし、それは「その時」にならないと分からないものだった。キミは、今どうしてそうなったのか分からなくて悩んでいることはないかな？また、今キミが経験していることは将来神さまのためにどのように用いることができるか考えてみよう！

# 教 師 ノ ー ト

日付	2015年11月15日
単元	捕囚と帰還
テーマ	神様は主権をもってご自身の民を導かれる
タイトル	エルサレム、再び
テキスト	エズラ記 1 章—6 章
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) イザヤ 43:13
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

## □導入

キミは遠くに引越したことがあるかな？時々前に住んでいた町に帰りたくなることもあるよね。久しぶりに帰るとなんだかほっとして嬉しくなるんじゃないかな？

バビロニア帝国に滅ぼされて奴隷になってずっと故郷に帰れなかったイスラエルの人たち。でも時代が変わってペルシャの国がバビロンを征服した。先週も話した通りペルシャの王様はイスラエルの人たちにエルサレムに戻ることを許してくれたんだ。エステルのようにそのまま住み慣れた所に留まる人もいたけど、多くのユダヤ人がエルサレムに戻って行ったんだ。それは神さまの不思議な導きだった！

## □ポイント1 ペルシャの王クロスはイスラエル人がエルサレムに帰ることを許しました(1-3 章)

エステルが活躍する時から少しさかのぼります。あれだけ強かったバビロンも時代が変わりペルシャの国に征服されてしまいました。神さまは新しくペルシャの王様になったクロス王の心に働きかけてイスラエル人がエルサレムに戻ってもう一度神さまの神殿を建て直すように導いて下さいました。やり直しのチャンスを与えてくださったのです。イスラエル人は大喜びでした。「さあ！エルサレムに帰ろう！」多くの人が立ち上がりました。クロス王も、今までの王様がエルサレムから奪ってきた神殿の道具や宝物を調べて持って帰るように準備して送り出してくれたのです。すごいことですね！

エルサレムに戻る一団のリーダーはゼルバベルです。ゼルバベルと共に4万人以上の人たちがエルサレムに帰ることになりました。もう一度エルサレムに神さまの宮を建てるためです。長い長い旅をして、とうとうエルサレムに帰って来た時、人々は喜びの中で自分から進んで神さまに捧げものをしました。そして自分の先祖たちが住んでいた町にそれぞれ帰ったのです。それからしばらくして生活が少し落ち着くと、彼らは再びエルサレムに集まりました。祭司ヨシュアが中心になってまず神さまに礼拝を捧げました。自分の国で自由に、喜んで礼拝できるとは何と幸せなことでしょうか！これから神殿を建てます。働く人が集められ、必要な材料もそろいました。そしてついに土台が完成したとき、人々は喜びと感激で神さまを賛美しました。中には昔の立派な神殿を知っている人もいました。それに比べたらあまりにも粗末なので泣いて悲しむ人もいました。でもみんな心は一緒です「神さま、こうしてもう一度新しい神殿を建てさせて下さって本当にありがとう！」賛美の声が遠くまで響き渡りました。

## □ポイント2 神殿の再建には多くの困難がありました(4-5章)

いよいよ神殿を建て始めます。ところがその噂を聞いてすでにそこに住んでいた移民の人たちがやってきました「私達にも手伝わせて下さい」でもそれは嘘です。実は工事を手伝うふりをして邪魔をしようと



していたのです。ゼルバベルとヨシュアはそのことを見破って言いました「これは私達の神さまの神殿です。本当に信じている自分たちがやりますので大丈夫ですよ」と、今度はいろいろな手を使って工事を邪魔してきました。脅したり、役人にこっそり贈り物をしてやめさせようとしたり、悪口をたくさん書いた手紙を王様に送りつけたりもしました。あまりにも妨害がひどいので神殿の工事はついにとまってしまいました。それから18年…神さまは預言者ハガイとゼカリヤを通してもう一度工事を始めるようにと励まして下さいました。ゼルバベルとヨシュアも神さまのみことばを聞いてもう一度奮い立ちました。クロスの子にペルシャの王になったダリヨスはエルサレムの神殿を建て直すことは前王クロスの命令であったことを調べてくれました。

④(4:2)「連れてきた」…アッシリアの政策は占領地の住民を捕囚にし、他の民と入れ替える方法であった。従ってイスラエル人が帰還してもそこにはすでに別の民族が住み着いていた。

(4節)「その地の民」とはサマリヤの人々のことを指す。

### □ポイント3 ダリヨス王の時代になって神殿はついに完成しました(6章)

ダリヨス王はイスラエルの神殿工事が前王クロスの命令であったことを知りその工事を。全面的に応援してくれることになりました。神さまは神さまを信じていない王さまをも用いてご自身の神殿を建てさせて下さったのです。ついに、エルサレムの神殿が完成しました。エルサレムに戻ってきたイスラエル人たちはみんな喜んで、出来上がった神殿を神さまに捧げる盛大なお祝いをしました。そこにはイスラエル人ばかりでなく、まことの神さまを信じるようになった外国人たちもいました。

### □結論 神さまは主権をもってご自身の民を導かれるお方です

### □適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1. イスラエルの人々は本当に不思議な方法で再び故郷のエルサレムに帰ってくるのができたんだ。なんと神さまは真の神さまを知らない異国の王様に働きかけてイスラエル人を導き神殿の再建までさせてくださったんだね。神さまはすべてのことを支配しておられるお方なんだ。もしも今、心配していることや不安なことがあったとしても、僕たちがただ神さまを信頼して、信じて従っていくなら、神さまは必ず守って助けて下さるよ！
2. イスラエル人はエルサレムに戻ってきてまず第一に神さまを礼拝する神殿の再建に取り掛かったんだ。それは、すべてのことの中に神さまを置く信仰の表れと言える。キミはまず神さまを第一に求めているかな？

# 教師ノート

日付	2015年11月22日
単元	捕囚と帰還
テーマ	神様はへりくだって助けを求める者の祈りに応えてくださる
タイトル	お祈りの力ってすごい(ネヘミヤ)
テキスト	ネヘミヤ記 1 章、2 章、4 章～6 章 16 節
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 詩篇 50:15 or ヘブル 4:16
AG 日曜学校教案参照箇所	(リンクできます)

## □導入

キミは神さまにお祈りして応えられたことあるかな? 「お祈りなんかしたって何も変わらないよ! 」と思うかな。お祈りは天地を造られた何でもできる神さまとお話すること! 今日はネヘミヤさんのお祈りを通してどんなことが起こったか聖書から学ぼう!

神殿が再建されてからすでに 50 年以上経ってもまだエルサレムの街は荒れたままだったんだ。ネヘミヤさんはそのことを悲しんでエルサレムに戻ることを決意したんだよ。

## □ポイント1 ネヘミヤはエルサレムが荒れ果てていることを聞いて神さまに祈りました(1、2章)

ネヘミヤというイスラエル人がいました。ネヘミヤもまた捕囚となった人たちの子孫で今はペルシヤの国に留まってアルタシャスタ王様のそばで仕える大切な仕事をしていました。ある日、ネヘミヤの所に親戚の人やエルサレムに戻った人々がやってきました。「エルサレムにいる皆さんはお元気ですか? 」ネヘミヤが聞くとその人たちは悲しい顔をして言いました「エルサレムは今とてもひどい状態です。城壁は崩れたまま、門は焼かれたままです。また、イスラエル人は周りに住む人々にいじめられて、苦しい生活をしています」ネヘミヤはびっくりしました。そして自分の国の人々が苦しんでいることを思っ悲しくなり食事もしないで泣きながら神さまに祈りました「ああ、神さま私達はあなたに罪を犯しました。不信仰を許してください。イスラエルを憐れんでください」ネヘミヤは熱心に祈り続けました。

ある日王様がネヘミヤに尋ねました「お前は どうして そんな悲しそうな顔をしているのだ? 」ネヘミヤはエルサレムに帰った自分の国の人々のつらい状況を王様に話しました。「お前に何かしてやれるだろうか? 」ネヘミヤは自分にエルサレムに行って町を再建させてくれるように頼みました。王様はその願いを聞き入れてネヘミヤが安全に帰れるように、必要な材料も手に入るようにすべて手配してくれたのです。神さまはネヘミヤの祈りを聞いて下さいました。ネヘミヤはエルサレムに着くと早速城壁を再建するためにひそかに調査を始めました。それは誰にも邪魔されることがないためです。そしてみんなを集めて言いました「神さまがお祈りに応えてわたしを送って下さいました。王様の許可もあります。さあ、城壁の建て直しに取り掛かりよう! 」みんなはネヘミヤの声に励まされて早速工事に取り掛かりました。

⑤ (1:6) 「罪を犯しました」…ネヘミヤの祈りは罪の告白から始まる。捕囚の現実がイスラエルの神への背信に基づくものであることを認め自分の罪としてネヘミヤは認めている。自分が罪人であることをへりくだって認め神に頼るネヘミヤの祈りこそ信仰の祈りである。ただ願いだけを述べるのではなく、罪の自覚とへりくだりの元に神に頼って祈るのである。

⑤ (11 節) 「献酌官」…王の給仕役。王のそばで仕え仕事上、ネヘミヤは王からの信頼が厚かったことが分かる。また献酌官は宮廷内における影響力も強かったとされている。

## □ポイント2 ネヘミヤは神さまに祈りながら城壁を直していきました(4-5章)

工事はどんどん順調に進んでいきました。ところが、それをよく思わない人たちもいました。エルサレムの周りに移住していた人たちです。その中のサヌバラテやトビヤ達はイスラエル人が自分たちより強くなることを恐れて様々な妨害をしてきました。「そんなのキツネ一匹乗っても崩れちゃうぞ！」と悪口を言って民の心をくじこうとしました。「神さまどうぞお守りください」ネヘミヤは神さまに祈り続けました。敵が攻めてきた場合に備えて半分の人が工事をしている間、残りの半分の人は見張りをするように工夫しました。ある者たちは片手に武器をもって片手で工事をする人もいました。ネヘミヤは「神さまがともにいてくれるから大丈夫だよ！」と言って常に人々を励ました。ユダヤ人の中からも疲れて「もう何とかして下さい」と泣き言をいう人々も出てきました。しかしネヘミヤは神さまに祈り知恵をいただいてその都度問題を解決することが出来ました。

## □ポイント3 神さまはネヘミヤを助けて城壁を再建させて下さいました(6章)

ある時サマリヤの役人たちは互いに悪いはかりごとをしてネヘミヤを殺そうと計画しました。しかしネヘミヤは祈りの中でその策略を見抜いていのちを守ることが出来ました。ネヘミヤはどんなことがあっても神さまに祈ることをやめなかったのです。自分には力はないけれど、神さまには力があると信じて頼り続けたのです。そして、あれほど妨害が激しかったにもかかわらずネヘミヤが城壁の再建を初めてなんと52日目には城壁が完成してしまったのです。みんな大喜びでした。工事を妨害した人々も神さまの力を認めざるを得ませんでした。

## □結論 神さまはへりくだって助けを求める者に応えてくださるお方です

## □適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

ネヘミヤは異国の地で王様の献酌官としてとても高い地位にいた人でしたが、神さまを信じ、どんな時にもへりくだって神さまに助けを求めてお祈りする人でした。キミは自分の力でやろうとしてくるしくなっていないかな？神さまは「僕にはできないから、神さま助けて！」とへりくだって助けを求めることを喜ばれる。そしてお祈りを必ず神さまは聞いてくださるんだ。神さまにお祈りしたいことはあるかな？